

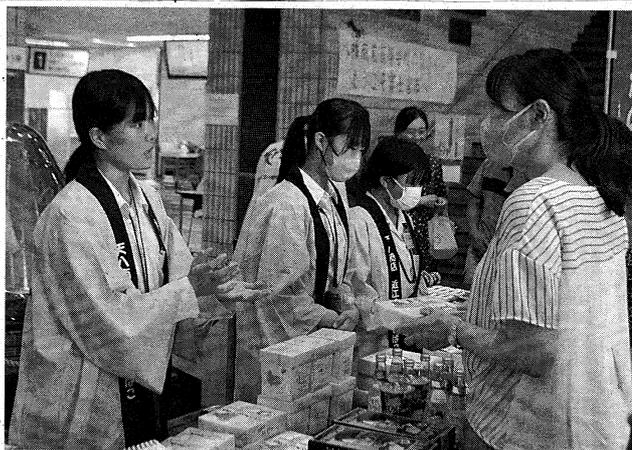


岳南朝日新聞社
〒418-0033
富士宮市野中東町46-1

近江高校生が特産品販売

富士宮 高校生も親睦深め

富士宮市の夫婦都校の『天八商店』門市、近江八幡市の八幡バー23人は26日、「商業高校の訪問販売実10回近江商人再生プロ習が、4年ぶりに富士シエクト」として、自宮市内で行われた。同分たちで仕入れた特産



商品を説明する八幡商業高校の生徒

品を訪問販売したり対面販売したり。販売には地元富士宮高校会議所(勝亦海吏会頭)の約10人も参加し、互いに親睦を深めながら近江商人の精神を育んだ。同校は「近江商人の士官学校」と呼ばれており、同プロジェクトを通して「売り手・買い手・世間」の「三方よし」の精神を学び商業経済活動の重要性を学んでいる。2013年の第1回以降8回目の来宮。今回は夏季休暇期間を利用し、22日から富山、新潟、東京、静岡、岐阜を周り、訪問地で特産品を仕入れ、次の訪問地で販売する「産物回し」を体験している。

同日は、富士宮市役所を訪れた同商店メンバーを須藤秀忠市長と高校会議所メンバーが歓迎。1階ロビーでセレモニーを実施した。須藤市長は「近江八幡市とは1968年に夫婦都市提携を結んで以降、多くの交流を行っている。商人の精神

や商法を体感できる近江商人再生プロジェクトは皆さまにとって大変貴重な体験」と同プロジェクトを絶賛。同商店の米澤一輝社長は「富士宮高校会議所と交流しながら、互いにこんな感じだよと見せ

ていきたい」と意気込みを述べた。同会議所の杉山菜奈2年生リーダーは「交流した先輩方から近江商人の神髄の重要性は何回も聞いている。富士宮高校会議所の基本の精神にもなっている」と述べた。セレモニー後は、同商店メンバーと同会議所メンバーが8班に分かれ販売を実施。市役所で販売を行った班は、「赤こんにゃく」「稚羊羹(でっちようかん)」「氷見うどん」「レトルトカレー」等生徒らが仕入れた商品を販売し、訪れた人に商品の魅力をアピールしていた。そのほかの班は市内約10区で訪問販売を展開した。

販売して得た収益金は震災復興など社会福祉支援に寄付するとしている。